

JVA REPORT

6

'16 JUNE
NO.176

MAIN REPORTS

- 島谷会長 就任挨拶
- 2016年度事業計画
- 映像ソフト市場規模及び
ユーザー動向調査2015

SCIENCE FICTIONS

LOVE STORY

EDUCATION

ANIMATION

ACTION

KIDS

MUSICAL

CONCERT

HOW-TO

TV SHOW

一般社団法人 日本映像ソフト協会 会報



会長就任挨拶 島谷能成(東宝㈱ 代表取締役社長)	2
一般社団法人日本映像ソフト協会役員名簿	2
2016 年通常総会および会長、副会長就任の記者発表会の開催報告	3
2016 年度事業計画	3
第 353 回、第 354 回定例理事会開催報告	6
新入会員社 自社紹介	6
映像ソフト市場規模及びユーザー動向調査 2015	7
DEGJ 推奨 ULTRA HD Blu-ray ログ表示について	9
2016 年度新入社員合同研修会開催報告	10
2015 年度違法対策活動報告と 2016 年度の活動方針	10
「市場活性化キャンペーンワーキンググループ(仮)」開催報告	11
ビデオソフト売上統計調査の変更点について	11
e メディア部会第 11 回定例セミナー開催	11
第 40 回 JVA 懇親ゴルフコンペ開催報告	11
コンテンツ海外流通促進機構	12
リレーエッセイ ⑪⑨	13
日誌に見る協会の動き	13
月間売上統計(3 月、4 月)	14
2016 年度中堅社員合同研修会のお知らせ	14

<http://www.jva-net.or.jp/anti-ripping/>



サラリーマン 山崎シゲル

× 日本映像ソフト協会

知っていますか?

アンチリッピングキャンペーン DVDのリッピングは違法です!

会長就任挨拶

しま たに よし しげ
会長 島谷 能成
 (東宝(株) 代表取締役社長)



この度、桐畑前会長のご退任を受け、一般社団法人日本映像ソフト協会会長の重責を担うこととなりました。副会長として約4年間、この映像ソフト協会の運営に携わって参りましたが、これからは牽引役としてこの業界をリードしていくべく日々精進して参る所存です。

ご承知のとおり、映像パッケージの市場は長らくの間、右肩下がりの傾向が続いており、市場の停滞が否めません。このまま縮小傾向がどこまで続くのか、業界全体に不安が蔓延していることを肌で感じます。まず第一に私が取り組みたい課題は、いま我々にできること、やるべきことを明確にし、このムードを打破していくことだと考えています。まずは業界を元気にすること、映像パッケージビジネスをもう一度盛り上げていこうと我々自身が信じていけるようなムードに変換していくことが大事だと思っています。その第一歩として、協会内に「市場活性化キャンペーンワーキンググループ」を立ち上げ、その目的を達成するためのムーブメント作りの素案を検討しており、スピード感をもって形にしていくことを目指します。

また、私が長らくエンタテインメント業界に身を置いた中で最も重要と考えていることは、モノづくりに懸ける情熱と才能の発掘です。面白い発想、面白い企画、面白い人・・・常にアンテナを敏感に働かせて、我々が持つスキームを生かしてその才能に花を咲かせていくのが、我々の仕事だと考えております。それを多くの業界の方々が実現していけば、もっと数多くのいい作品を世に送り出すことができるはずで。改めてこの「モノづくり」の根幹を見つめなおし、是非、会員社の皆さんと一緒に前に進んでまいりたいと思っております。

さらに、昨今では、新しい市場として映像配信ビジネスにも注目が集まっており、パッケージビジネスとの共存が取り沙汰されておりますが、消費者の方々へ作品を届ける

手段としてそれぞれの特質を生かし、どちらのビジネスも大きくしていかなければなりません。とはいえ、映像配信ビジネスについてはまだ市場は未成熟で不明瞭な要素が多く、ユーザーニーズの動向、市場規模の把握、各企業の考え方などいろいろな方面からの研究を継続し、その成長を促していきたいと考えております。それと同時に、いよいよ本年は「ULTRA HD Blu-ray」ソフトが発売されます。1996年にDVDが、2006年にBlu-rayが、そしてそのまた10年後の今年、ULTRA HD Blu-rayが世の中に登場していくわけですが、ますます映像の表現力は高度なものへと発展しております。この素晴らしい映像の世界をより多くの人々に味わっていただけるよう新しいパッケージ市場の実現にも努力していきたいと思えます。

また、配信を含めた映像コンテンツビジネスの発展を支えていくための環境整備の一環として、著作権法の整備や国内外におけるパライシー対策も重要です。かねてより当協会は長い歴史の中において、この方面にも傾注してまいりました。文化庁、経済産業省、警察庁、知的財産戦略本部等の関係官庁への働きかけ、および関係諸団体との連携など、これまで同様に協会として果たすべき役割を務めていきます。また、当協会事務局と事務局の場所を一つにして業務に当たっている不正商品対策協議会や一般社団法人コンテンツ海外流通促進機構(CODA)とも、今後も協力関係を継続し、日本コンテンツの発展に寄与してまいります。

業界として取り組むべき課題ひとつひとつに真摯に向き合い、新しく就任された井上副会長や事務局とも密に連携を取りながら取り組んでまいり所存です。理事・監事の皆さまをはじめ会員社の方々、関係官庁、関係団体、流通事業者、報道関係の方々など、関係各位の皆さまからのご指導・ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

一般社団法人 日本映像ソフト協会					役員名簿		(2016.6.7現在・五十音順)
会 長	島谷 能成	東宝(株) 代表取締役社長	理 事	重村 博文	キングレコード(株) 代表取締役社長		
副 会 長	井上 伸一郎	(株)KADOKAWA 代表取締役専務執行役員	理 事	高木 ジム	NBCユニバーサル・エンターテイメントジャパン(同) 最高経営責任者兼社長		
専務理事	後藤 健郎	(一社) 日本映像ソフト協会	理 事	竹内 成和	エイベックス・ピクチャーズ(株) 取締役		
理 事	今井 環	(株)NHKエンタープライズ 代表取締役社長	理 事	塚越 隆行	ウォルト・ディズニー・ジャパン(株) ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン シニア・ヴァイス・プレジデント兼ゼネラル・マネージャー		
理 事	大谷 信義	松竹(株) 代表取締役会長	理 事	花房 秀治	(株)バップ 代表取締役社長執行役員		
理 事	川合 史郎	20世紀フォックスホームエンターテイメントジャパン(株) 代表取締役社長	理 事	松岡 宏泰	東宝東和(株) 代表取締役会長		
理 事	川城 和実	バンダイビジュアル(株) 代表取締役社長	理 事	間宮 登良松	東映ビデオ(株) 代表取締役社長		
理 事	桐畑 敏春	(株)ボニーキャニオン 取締役相談役	理 事	依田 巽	ギャガ(株) 代表取締役会長CEO		
理 事	今野 敏博	(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント 取締役コーポレートEVP	監 事	林 三郎	(株)第一興商 代表取締役社長		
理 事	佐藤 直樹	日活(株) 代表取締役社長	監 事	前田 哲男	染井・前田・中川法律事務所 弁護士		

2016年度通常総会および会長、副会長就任の記者発表会の開催報告

去る、6月7日(火)14時より、当協会会議室において**2016年度通常総会**を開催した。正会員社30社のうち出席21社(委任状出席4社 議決権行使書提出6社を含む)、欠席9社だった。以下のとおり報告事項1件が報告され、決議事項2件が承認された。

●報告事項

1. 2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)事業報告 報告の件

●決議事項

- 第1号議案 2015年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び同付属明細書(案)承認の件
- 第2号議案 2016年度事業計画書(案)及び2016年度収支予算書(案)承認の件

総会に引き続き、**第355回定例理事会**が開催され、会長、副会長の選定を含む以下の議案が承認された。

●決議事項

- 第1号議案 会長・副会長選定の件
会長 島谷能成 (東宝(株)代表取締役社長)
副会長 井上伸一郎 (株KADOKAWA代表取締役専務執行役員)
- 第2号議案 理事候補者選出(案)承認の件
- 第3号議案 臨時総会開催の件

●報告事項

1. 各部会報告について
2. 中堅社員研修について
3. 知財推進計画2016について
4. 著作権等管理事業法に関する意見募集に対する意見(案)について
5. 2016年4月度ビデオソフト売上速報について
6. 2016年4月映像配信統計報告について
7. その他

また、理事会終了後、島谷新会長、井上新副会長、後藤専務理事が出席し、会長、副会長就任及び2016年度事業計画等につき記者発表会を開催した。

▼写真左から、井上新副会長、島谷新会長、後藤専務理事(記者発表会において)



2016 年度事業計画

2016 年度事業計画 (2016 年 4 月 1 月から 2017 年 3 月 31 月まで)

2015年のビデオソフトの出荷実績は2181億1300万円で前年比94.9%となった。総売上は前年を割り込んだものの、ブルーレイの売上対前年比は101.9%と、『アナと雪の女王』のリリースがあった2014年をも上回る売上となった。セル市場に関しては、『洋画』が勢いを回復させているなど下げ止まり感が感じられるものの、依然、レンタル店向け出荷は1割程度の減少が続いている。映像コンテンツ市場は大きな変化の中にあり、パッケージ、配信を含め全体を俯瞰しつつ将来のビジョンを描く必要性に迫られている。このことから本年度は、消費者動向についての調査をさらに充実させユーザーニーズの把握に一層努めるとともに、市場を活性化させるための施策についても検討し、実施していく。

また昨年は、4Kテレビの出荷台数の伸長が目立ち、さらにはULTRA HD Blu-ray機器も発売されるなど、映像技術のさらなる進展が目に見える形で表れてきた。こういった技術に対応した映像の制作にも取り組み、ビジネスチャンスに繋げていくことが重要となっている。

著作権関連では、公衆送信権侵害拡散スキームの中心的役割を担っている「リーチサイト」等に対する法制度の整

備は喫緊の課題である。この問題は知的財産戦略本部でも取り上げられており、当協会としてもその法制度整備実現に努める必要がある。

さらに映像配信をめぐる大きな動きがあった。米国大手の映像配信会社の日本でのビジネス開始、コンテンツ提供者による映像配信ポータルサイトの開始、テレビ局による見逃し配信サービスの活発化など、一般ユーザーにも映像配信サービスがより身近となる環境となってきた。当協会では「配信マーケティング委員会」を組織し、マーケット状況の把握や課題の整理等につき検討する場を設けることとした。

加えて、これまでの協会運営組織を見直し、集中すべき事業を明確化にして取り組んでいくため、組織の改編を実行する。

昨年度は新規の事業として、業界内の人材育成を目的に「新入社員合同研修会」や「若手・中堅社員合同研修会」を開催した。また、ネット上の海賊版問題の根源となっている映像の「リッピング」の違法性をユーザーに訴える「アンチリッピングキャンペーン」を開始した。これらの事業については本年度も継続して実施し、効果を上げてい

きたい。

変化の激しい環境の中、映像ソフト市場のさらなる発展をめざし、本年度は次のような事業を推進していくこととする。

[] 内は担当主務部会

【1】映像ソフト産業の健全な発展をはかる施策の実施

[業務部会]

1. 映像ソフトのバリアフリー化・アーカイブ化の運用ルール等環境整備

会員社や関係官庁・関係団体等が行っている映像ソフトのバリアフリー化（音声ガイドや日本語字幕の付与等）・アーカイブ化の取組みについて、運用ルールの構築等の支援協力を行い、誰もが映像ソフトを楽しむことができる環境整備に努める。

2. 協会活動充実のための新入会員勧誘の促進

映像ソフト産業界を代表する団体として、業界の発展に資するため、より多くの映像ソフト製作社、流通・映像コンテンツ関連事業社等の入会を募る。

3. 倫理問題の研究・意識の啓発

青少年に及ぼす映像ソフトの影響に鑑み、倫理規定遵守の徹底をはかる。

また、倫理問題の研究と意識の啓発に努めると共に、関係官庁・関係団体との連携・協力に努める。

4. 経理・税務問題の検討

税制改正、会計処理の変更等については、随時対応について検討する。

5. 正会員各社を対象にした合同社員研修の実施

イ. 2015年4月入社社員を対象にした新入社員合同研修を実施する。

ロ. 若手、中堅社員を対象にした合同研修を実施する。

【2】市場の整備及びマーケティング活動の活性化

1. マーケティング施策の調査・研究

[営業部会／業務部会]

イ. DVDビデオ・ブルーレイ・ULTRA HD Blu-rayの市場動向を把握するとともに、レンタル、セル等の市場別マーケティング施策の研究・検討を行う。

ロ. 映像配信の市場動向を把握することを目的として、会員社の映像配信売上についての調査を実施するとともに、映像配信のマーケティング施策の研究・検討を行う。

ハ. 映像コンテンツのデータベースについては、(株)ジャパンミュージックデータとの提携を継続し、データ収集状況ならびにデータベースの利用実態を把握する。

2. 業務用市場の流通の円滑化と活性化のための施策

[流通促進部会／著作権部会]

ホテル、バス、健康ランド、船舶、複合カフェ、公共施設等における映像ソフトの上映・配信利用に対する正規市場の維持・発展に努める。

3. レンタルシステムの運用

[レンタル運用委員会／流通促進部会]

当協会のレンタルシステム加盟店の実態把握と未加盟店の加入を促す。

4. 市場活性化の施策

[営業部会／流通促進部会]

市場活性化のための施策を検討する。

5. 会員地区連絡協議会への支援

[流通促進部会]

映像ソフト市場の健全な発展のため、会員社出先機関で組織された会員地区連絡協議会が行う市場活性化、著作権保護活動等の諸活動を支援する。

【3】知的財産権の擁護確立及び施策の推進

1. 著作権に係わる広報・普及活動

[業務部会／著作権部会／流通促進部会]

映像著作物の許諾実務、映像ソフトの著作権に関する諸問題について、調査研究を行い、広報・啓発活動を行うとともに、関係官庁・関係団体の行う知的財産権に係わる広報・啓発活動に協力する。

特に、無許諾配信等著作権侵害のツールである技術的制限（保護）手段を無効化（回避して複製）するリッピングソフトの提供、使用等が違法行為であることの周知を図る広報活動を、関係官庁や関係団体等と連携し、継続して実施する。

2. 識別シールの発行等

[レンタル運用委員会／流通促進部会]

海賊版識別及び頒布権の行使態様を表示するための統一マークを印したシールの発行及び同マークの登録商標の利用許諾を行い、正規市場の維持を図るとともに、一般利用者の正規品識別に資するよう努める。

3. 関係権利者団体との間における諸問題への対応

[著作権部会]

関係権利者諸団体と著作物使用料規程その他の諸問題について協議する。

4. 著作権保護と無許諾利用の防止

[著作権部会／流通促進部会]

関係官庁や関係団体と連携して、映像著作物の無許諾利用（複製・頒布・上映及び配信等）の防止に努める。また、技術的制限（保護）手段を無効化（回避して複製する）プログラムの提供行為等の防止に努める。

5. 国際的著作権問題に対する対応

[業務部会／著作権部会]

イ. 海外での映像ソフトの無許諾利用の防止に努める。

ロ. 原産地証明の発行

台北駐日経済文化代表處からの要請により、倫理基準の遵守と台湾における海賊版防止のため、関連団体との連絡を密にしながら原産地証明を発行する。

ハ. 海外での映像ソフトの利用実態を把握するため、必要に応じ近隣諸国及び地域に視察団を派遣する。

6. 著作権法等の整備への対応

[業務部会／著作権部会]

著作権法第38条第1項に関する当協会の見解の普及に努めつつ、著作権法制度の整備を含め、著作物の通常の利用が妨げられない同条同項の運用がなされる環境の構築に

努める。また、私的録画補償金制度に関する審議会の審議動向を注視しつつ、その状況に適した対応に努める。

【4】映像メディアの現状と今後に関する調査・研究

[eメディア部会]

1. 映像配信事業に関する調査・研究

- イ. 映像配信技術・管理技術に関する調査・研究を行う。
- ロ. 映像配信をはじめ、多様な映像コンテンツ流通チャンネルが提供されている諸外国へ、必要に応じ視察団を派遣する。

2. 映像ソフトに関する調査・研究

映像ソフトに関する新たな技術や流通等に関する調査・研究をする。

3. セミナー・研究会の開催

映像メディアの将来に係わる重要な情報技術や社会情報学に関する調査・研究を行う。また、必要なセミナー・勉強会を開催する。

【5】映像ソフトに関する調査 [業務部会／営業部会]

1. 協会会員社を対象とする売上の統計調査の実施

- イ. 映像パッケージソフトの売上統計調査を半期ごとに年2回実施し、報告書を作成して公表する。
- ロ. 映像パッケージソフトの月間売上統計調査を実施し、速報として公表する。
- ハ. 映像配信事業に係る月間売上統計調査を実施し、会員社及び協力社に結果を提供する。

2. レンタル市場の実態把握のため、レンタルシステム加盟店を対象とした「ビデオレンタル店実態調査」を実施し、報告書を作成して公表する。

3. 消費者レベルでの映像パッケージソフトや映像配信の市場動向を把握するため、「映像ソフト市場規模及びユーザー動向」に関する調査を実施し、結果を公表する。

【6】映像商品制作に関する調査・研究 [業務部会]

- 1. 映像関連技術情報の収集及び調査を行う。
- 2. その他、映像商品制作にかかわる関連技術や商品管理情報等に関する調査・研究を必要に応じ行う。

【7】国際的諸問題に対する対応 [流通促進部会]

- 1. 一般社団法人コンテンツ海外流通促進機構（CODA）に参画するとともに、海外における日本コンテンツの流通環境の整備等を推進する。
- 2. 海外市場の実態の把握
協会会員社の関連性の高い海外市場の実態調・研究に資するため、必要に応じ近隣諸国及び地域における実態調査を行う。

【8】情報の収集及び提供 [業務部会]

1. 会報の発行

協会の事業活動報告、当面する諸問題の報道・解説、国際情報等を内容とする「会報」を、年6回発行する。

2. 『JVA BOOK 2016』の発行

ビデオソフトの著作権に関するQ&Aやマーケットデータ等をまとめた『JVA BOOK 2016』を発行し、会員社をはじめレンタルシステム加盟のビデオレンタル事業者に配布するほか、一般からの要望にも対応し、業界の広報誌として広く活用する。

3. ホームページ等を通じて協会事業の会員社内外及び一般利用者へのPR活動を展開する。

4. 一般紙・業界誌等の報道機関と接触を図り、協会活動等につき広報活動を展開する。

【9】内外関係機関等との交流及び協力

- 1. 関係諸官庁等に対して、映像ソフト産業の特性、実態等の的確な説明に努め、映像ソフト産業の健全な発展のために協力を要請するとともに、自主規制による良好な環境整備の実現に努める。

[業務部会／著作権部会]

- 2. 関係諸官庁等に知的財産権保護活動に理解を求めるとともに、知的財産権侵害の取締りを要請する等健全な市場の維持・発展に努める。

[業務部会／著作権部会／流通促進部会]

- 3. 協会が事務局を務める不正商品対策協議会等、会員として加盟する関係諸団体の事業に協力するとともに、協会の事業に対する理解・協力を要請する。また、その他の関連する団体との交流を図る。

- 4. 諸外国関連団体との交流を図り、国際市場の整備を目的とする内外情報の交換・著作権情報の交換及び著作権保護活動等を通じ国際市場の健全な発展に努める。

[業務部会／著作権部会／営業部会／流通促進部会]

- 5. CDVJ主催「ショップコンテスト」にてJVA賞を設置、レンタル店の活性化を支援する。東北地区連においては日本コンパクトディスク・ビデオレンタル商業組合（CDVJ）と共に同組合が主催する「ショップコンテスト」に「頑張ろう！東北！」賞を設置、東北エリアの復興支援をサポートする。

[業務部会／営業部会]

- 6. 関西、中部地区連、および、CDVJと協力、西日本賀詞交歓会を共同開催予定、広くエリア活性化に協力する。

[業務部会／営業部会]

【10】会員社間の交流の緊密化を図る催事の実施

会員社の交流を図るため、新年賀詞交歓会、会員親睦ゴルフコンペを実施する。

また、正会員、協賛会員を対象に現場レベルの懇親を図る「総合連絡委員会主催懇親会」を開催する。

【11】組織の在り方その他組織及び業務の全般にわたる検討

- 1. 会員ニーズに対応した組織・業務内容の見直しに努める。
- 2. 安定的協会運営を目的に実施している事務局の世代交代と事業及び人事体制の再構築を、検証を行いつつさらに促進する。

以上

第 353 回、第 354 回定例理事会開催報告

第353回定例理事会は、4月5日(火)14時より協会会議室において開催された。議事の要旨は次のとおり。

●決議事項

- 第1号議案 役員の異動及び担当職務変更・事務局人事の件・・・承認
 第2号議案 2015年度収支予算書(案)承認の件・・・承認
 第3号議案 市場活性化キャンペーンWG設置の件・・・承認
 第4号議案 出張旅費規定改定の件・・・承認
 第5号議案 「MIDEM/JAPAN STAND 2016」に対する後援名義使用承諾の件・・・承認

●報告事項

1. 各部会報告について
2. 知財関係報告(2016/3)
3. JASRACとのビデオグラム規定交渉について
4. 「映像ソフト市場規模及びユーザー動向調査2015」について
5. 2016年2月度ビデオソフト売上速報について
6. 2016年2月度映像配信統計報告について

第354回定例理事会は、5月10日(火)14時より協会会議室において開催された。議事の要旨は次のとおり。

●決議事項

- 第1号議案 2015年度事業報告書(案)承認の件・・・承認
 第2号議案 2015年度計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及び同付属明細書(案)の件・・・承認
 第3号議案 2016年度通常総会開催の件・・・承認
 第4号議案 役員報酬改定承認の件・・・承認
 第5号議案 2016年昇給(案)承認の件・・・承認
 第6号議案 2016年度上期賞与支給(案)承認の件・・・承認
 第7号議案 「MPTE AWARDS 2016」に対する後援名義使用承諾の件・・・承認
 第8号議案 ビデオグラム規定変更(2016年)に関する合意書(案)承認の件・・・承認

●報告事項

1. 各部会報告について
2. DEGジャパン推奨(ULTRA HD Blu-rayパッケージ・ロゴ表示)について
3. 4K・8K放送に関する規定をめぐる動向について
4. 2016年3月度ビデオソフト売上速報について
5. 2016年度映像配信統計報告
6. その他

◆◆◆ 新入会員社 自社紹介 ◆◆◆

正会員(2016年4月5日付)

リバプール株式会社

弊社は2003年に映像商品の企画・制作・販売を目的として設立いたしました。個別のCVSチェーンに向けた専用商品の開発を大きな特徴としており、取り扱うジャンルは「アニメ」「アイドル」「ホラー」「車」「自衛隊」などがあります。弊社が提供する商品やサービスは、各販売チャネルのニーズに沿った、換言するなら、各チャネルの主要顧客の購買意欲をくすぐることを前提として企画し、その商品を的確なタイミングで提供できるように心掛けております。また、2013年にはアニメーション制作会社である株式会社トムス・エンタテインメントの100%子会社となり、その強みを活用するため、アニメ・漫画コンテンツのグッズマーチャンダイジングやイベントの運営など、「映像」から派生する多岐にわたるサービスへの取り組みにも注力しております。

微力ではありますが、映像ソフト業界の活性化に貢献できるよう邁進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

(ご執筆者 代表取締役社長 山川 司朗 氏)

会社プロフィール

代表者	山川 司朗
住所	〒101-0051東京都千代田区神田神保町 3-17ヨシダFGビル2F
URL	http://www.liverp.co.jp
資本金	1億6,000万円
主な営業種目	放送／出版／情報提供サービス／ インターネットビジネス／ 映像制作／アニメーション制作／ CG制作 等
推薦会社	東宝(株) 株小学館

『映像ソフト市場規模及びユーザー動向調査2015』

～映像ソフト市場規模は5,136億円、前年比102.6%～

マーケット調査委員会はデジタル・エンターテインメント・グループ・ジャパンと共同で『映像ソフト市場規模及びユーザー動向調査2015』をまとめた。本調査結果については、4月27日（水）午後2時からJVA会議室において記者発表され、発表会にはマーケット調査委員会小野里康雄委員長（株）ポニーキャニオン）および、DEG統計調査委員会土合朋宏委員長（20世紀フォックスホームエンターテインメントジャパン（株））の両委員長が出席した。またJVAとDEG合同の会員社向け説明会を5月12日（木）午後2時からJVA会議室において開催し、本調査の実施・分析を担当した（株）文化科学研究所の猪田有弥ディレクターが詳細なプレゼンテーションを行った。

この調査は本年で11年目となるもので、今回は2015年の1年の間に、映像ソフトのユーザー（DVDとブルーレイの購入者及びレンタル利用者、有料動画配信の利用者）の消費実態についてアンケート調査し、その消費動向からユーザーレベルにおける市場規模を推計することを目的とした調査である。

2015年は、通信インフラの整備と視聴機器の普及により、動画配信サービスについては、前年同時期と比べても、提供事業者の増加並びに形態の多様化がみられた。また、他業種からの参入もあり、まさに群雄割拠といえる。この状況をふまえ、本年度は、本調査における有料動画配信視聴の定義をこれまでより広範に設定した。また、購入・レンタル・有料動画視聴の関係性をより明確にすることを目指したほか、ヘビーユーザーの定義も、これまでの映像コンテンツ購入金額に加え、有料動画視聴における視点も盛り込んだ分析を試みた。

以下に本調査の広報資料から、本号と次号の2回に分けて結果を報告する。

調査概要

(1) 調査対象

全国に居住する満16歳～69歳の男女で、インターネット利用者。（性年代別・都道府県別構成比を住民基本台帳に基づいて割り付けたインターネット利用者を対象に調査を実施し、その回収標本に対する補正をACR-Ex調査結果（株）ビデオリサーチ）を用いて実施した）

2013年度から開始した有料動画配信利用者のみを対象としたオプション調査（以下「有料動画配信調査」）も同様の調査設計で行った。有料動画配信利用者については、これまでと定義を改めた。

(2) 調査実施 2016年1月

(3) 調査対象期間 2015年1月～12月

(4) 調査方法 インターネットによる調査

(5) 回収サンプル構成

(a) 一般調査：1,500サンプル

(b) 有料動画配信調査：300サンプル

(6) 有料動画配信サービスについて

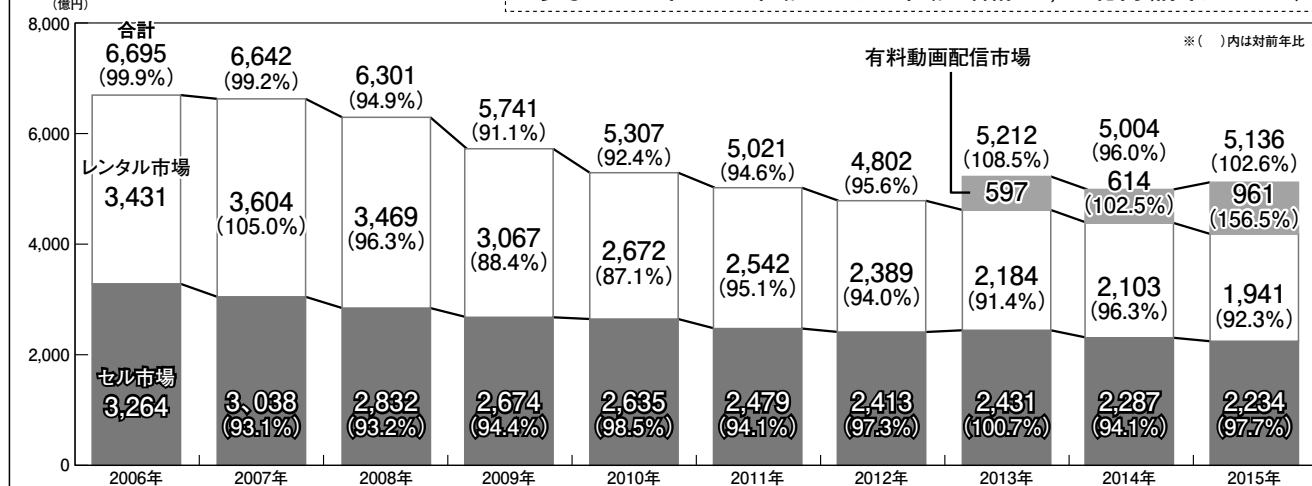
本年から、上記有料動画配信サービスには、有料放送局（WOWOWやスカパー！）会員やCATV契約者が追加契約無しでみられる見放題のVODや、ポータルサイトの有料付随サービスとしての見放題のVOD、あるサービスの有料会員になることの付随サービスとしての見放題のVODの視聴を含む。

(7) 集計データの補正

本調査は16歳～69歳のインターネット利用者を対象として実施したため、同世代の一般個人におけるデータとして推計するために、補正データとして、「ACR/ex調査」を用い、「ACR/ex調査」の対象者全体が一般の市場全体を代表しているとみなして、性年齢別にウエイト値を求め、データの補正を行った。

図1. 市場規模の推移

<参考>2015年のセル市場とレンタル市場の合計は4,175億円（前年比95.1%）



※2013年から有料動画配信サービスの市場推計値を算出。これまでのビデオソフトの市場規模の推移に追記した。

※本年から、上記有料動画配信サービスには、有料放送局（WOWOWやスカパー！）会員やCATV契約者が追加契約無しでみられる見放題のVODや、ポータルサイトの有料付随サービスとしての見放題のVOD、あるサービスの有料会員になることの付随サービスとしての見放題のVODの視聴を含む。

※なお、市場規模算出に当たっては、購入、レンタル、有料動画配信を利用したと回答した人のそれぞれのサービスの利用料金を基に推計している。

調査結果の概要

1. 2015年の映像ソフト市場規模は、5,136億円、前年比102.6%。

セル市場は2,234億円（前年比97.7%）、レンタル市場は1,941億円（同92.3%）、有料動画配信の市場規模を961億円（前年比156.5%）と推計し、それらを合算した2015年の映像ソフト市場規模は、5,136億円で、前年比102.6%と算出した。なお、市場規模算出に当たっては、購入、レンタル、有料動画配信を利用したと回答した人のそれぞれのサービスの利用料金を基に推計している。（図1）

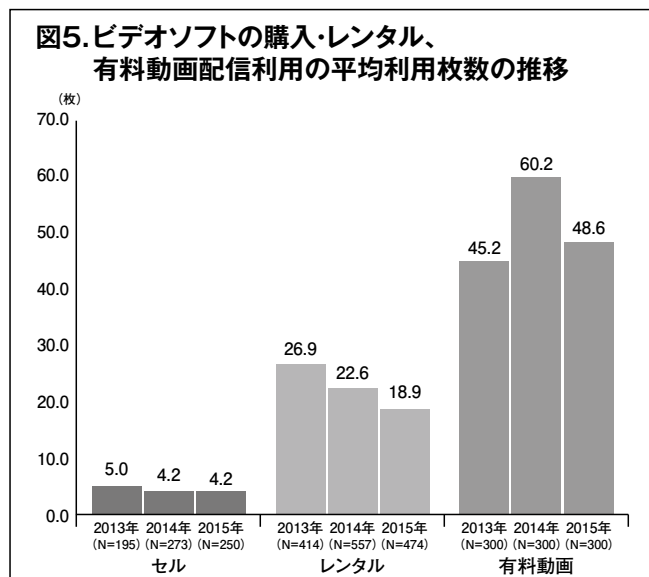
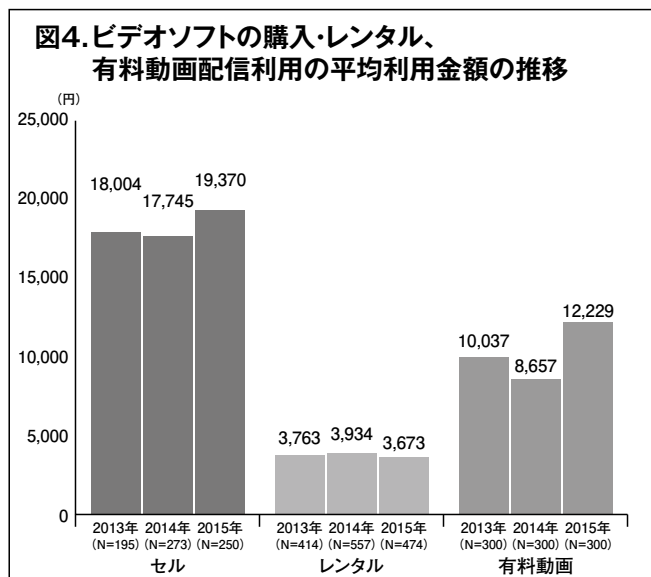
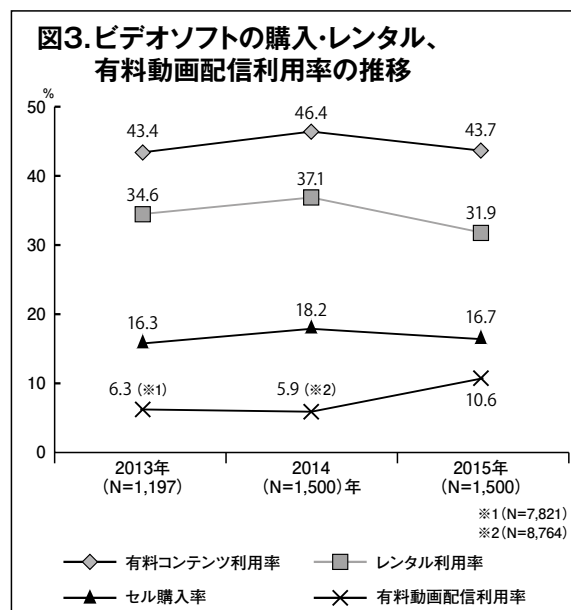
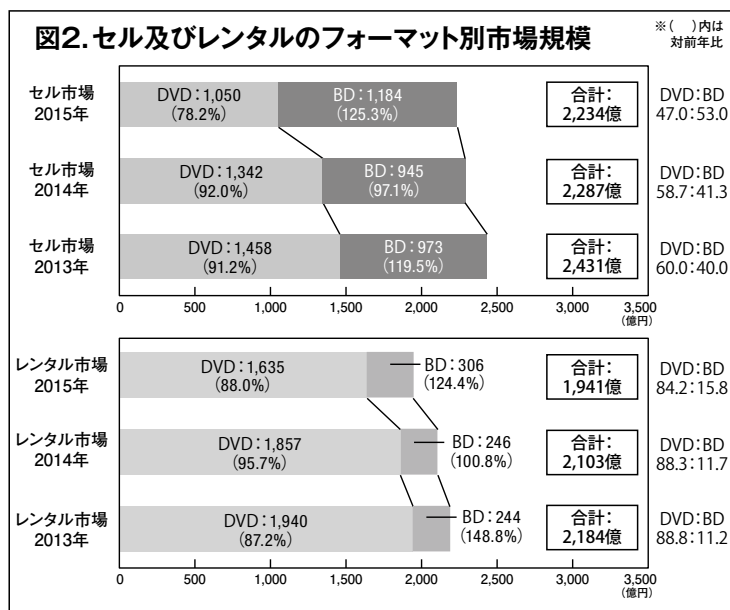
2. セル市場においては、今年初めてBDがDVDを上回り53%を占めた。

DVDとBDの割合は、セル市場で47対53（前年59対41）と、調査を開始して以来はじめて、BDのシェアがDVDを上まわり逆転した。レンタル市場で84対16（前年88対12）となり、BDのシェアはわずかながら上昇傾向が続いている。（図2）

3. ビデオソフトの購入率は16.7%、レンタルの利用率は31.9%、有料動画配信サービスの利用率は10.6%

購入、レンタル利用及び有料動画配信サービスのいずれかを利用した「有料コンテンツ利用者」は43.7%となった。2014年にはビッグタイトルとなった『アナと雪の女王』のリリースがあり、その影響で、2015年のビデオソフトの購入率、レンタルの利用率とも前年より減少することとなった。これを一昨年と比較してみると、ビデオソフトの購入率は16.3%から16.7%とほぼ変わらない割合となったが、レンタルの利用率は34.6%から31.9%となり、レンタルについては長期低落傾向が続いている。一方、有料動画配信サービスの利用率は前年の5.9%から10.6%へと大きく伸長したが、これは有料動画配信視聴の定義をこれまでより広範囲に設定したことも影響していると考えられる。（図3）

4. 年間平均消費金額は、ビデオソフトの購入が19,370円と最も高く、次に有料動画配信サービスの利用が12,229円、ビデオレンタルの利用金額の3,673円の順
一方、年間の平均利用枚数では、有料動画配信が48.6枚で最も高く、次にレンタル利用の18.9枚、購入の4.2枚となった。（図4、5）



DEGジャパン推奨 ULTRA HD Blu-ray ロゴ表示について

DEGジャパン（デジタルエンターテインメントグループジャパン）から、新規格のULTRA HD Blu-rayのロゴ表示および商品への表示箇所等についての推奨基準について案内があった。

ULTRA HD Blu-rayでは、4K、HDR等の新機能を導入しているが、ULTRA HD Blu-rayディスクは、現行のBlu-ray機器（プレーヤ、レコーダー）では再生できず、また、ULTRA HD Blu-rayディスクに格納されている4KやHDRの高色域等を活かすためには、HDR対応4Kテレビが必要となる。そこで、Blu-rayとは異なる新たなコンテンツ規格であることを明確に消費者に伝えるため、商品は統一的なパッケージやロゴを使用し、推奨基準に準拠していただきたいという趣旨である。

DEGでは、今後、JVA会員社を対象とした説明会を実施する予定としているが、JVAとしても、この推奨基準について、総合連絡委員会をはじめ関係委員会などにおいて資料を配布し、周知を進めることとしている。

Ultra HD Blu-ray表記のまとめ

- Ultra HD Blu-rayは黒のパッケージに下記の図に示したマークをUltra HD Blu-rayの映像内容に応じて表記する

	表紙上部の解像度表示	表紙左下部のHDR表記	表紙右下部のUP表記
4K, HDR	4K ULTRA HD	HDR	ULTRA HD PREMIUM
HD, HDR	ULTRA HD Blu-ray	HDR	
4K	4K ULTRA HD		
HD	ULTRA HD Blu-ray		
HD			

DEG Japan CONFIDENTIAL 6

DEG Japan推奨HDRマーク

- 黒バックに金文字
- HDR(フォント指定)とハイダイナミックレンジの文字列を配置
- 説明文
 - 鮮やかな色彩と豊かな陰影でより現実感のある映像を再現
 - 説明文章については、推奨。他の文案も含めて継続検討

HDR

ハイダイナミックレンジ

鮮やかな色彩と豊かな陰影でより現実感のある映像を再現

DEG Japan CONFIDENTIAL 7

「DEGジャパン」提供資料より

2016年新入社員合同研修会開催報告

総務人事委員会（枇杷浩史委員長 東宝(株)）は、本年度2年目となる正会員社の新入社員対象の合同研修会を、4月7日(木)・22日(金)にJVA会議室において開催した。各日の参加社及び参加人数は以下のとおりだった。

＜実施日及び参加社、参加人数＞

●第1回目：4月7日(木)13時30分～17時

(株)アニプレックス、ギャガ(株)、キングレコード(株)、松竹(株)、東宝(株)、(株)ポニーキャニオン／46名

●第2回目：4月22日(金)13時30分～17時

(株)NHKエンタープライズ、(株)KADOKAWA、東映(株)・東映ビデオ(株)、バンダイビジュアル(株)／45名

両日とも、冒頭に枇杷委員長と後藤専務理事の挨拶の後、各社の代表者による自社紹介を行った。

講義は、国内の映像コンテンツ市場、海外のエンターテインメント市場、著作権をテーマに事務局担当者が行った。講義に続き、各講義内容についての感想や考察を纏めるグループワークを行ない、各グループともに活発な意見交換がなされ、終わりに各グループ代表者はフリップなど使用しながら発表を行った。

研修後は別会場にて懇親会を開催し、各社の総務人事担当者も加わり両日合わせて120名程が参加、大盛況のうちに終了した。

参加者より回収したアンケート内容では、昨今動きをみせている映像配信についての関心が伺えた。その他、運営についての意見なども寄せられ、後日開催された総務人事委員会では、来年度に活かしていくこととした。

▼熱心に講義に聞き入る新入社員の皆さん



ANTI-PIRACY 流通促進部会

2015年度違法対策活動報告と2016年度の活動方針

4月15日(金)16時よりJVA会議室において流通促進部会（旧違法対策部会）を開催した。当日は、部会長の太谷信義理事（松竹(株)代表取締役会長）、各社委員、各地区連絡協議会の幹事の方々が出席した。以下の2015年度活動実績報告と2016年活動方針が承認された。

◇2015年度 活動実績

1. 調査・警告活動

2015年度は、1都2府26県のレンタル店423店についての調査を実施、廃業等249店を除く174店中、海賊版DVD所持2件（所持枚数500枚、回収枚数181枚）、セル用DVDのレンタル転用42件の違法行為を確認した。違法行為確認率は25%（昨年度18%）。

刑事告訴に関しては、33事件（昨年度21件）が検挙され、告訴状46件（昨年度35件）が受理された。また、11月に中部地区連絡協議会主催「レンタル店啓発キャンペーン」を実施した。

2. インターネット関連

●ファイル共有ソフト等を使用した著作権法違反事件全国一斉集中取締り

前号にて既報の通り、全国29府県警察は2月、ファイル共有ソフト等を通じた著作権法違反事件の一斉集中取締りを実施、全国93箇所を搜索、44人を検挙した。

●動画共有サイト「FC2動画」における無許諾アップロード者検挙

動画共有サイト「FC2動画」を悪用し、不特定多数の者が映画作品等をダウンロードできる状態にしていた者を2013年度に検挙して以来、同種事件に係わる警察からの問合せや鑑定依頼は増加傾向にある。2015年度は、「FC2動画」で1事件、また新たに「FC2ライブ」でも1事件を検挙した。「FC2ライブ」とは、動画等をインターネット上で“生中継”するサービスであり、動画ファイルをFC2サーバーへ蔵置し、視聴したい者の希望に応じていつでもダウンロードできる「FC2動画」とは仕組みが異なる。その性質上、いつ生中継が開始するか等、実態の把握が困難である点が「FC2ライブ」の特徴である。

◇2016年度 活動方針

本年度より違法対策部会と国際部会を統合し、「流通促進部会」と改称、以下を対象として活動をする。

◎動画共有サイト及びファイル共有ソフトを悪用した公衆送信権侵害

◎Eコマース及びオークションサイトによる海賊版の売買

◎露店商による海賊版の販売

◎レンタル店による海賊版レンタル、セル用DVDのレンタル転用

「市場活性化キャンペーンワーキンググループ」(仮) 開催報告

4月22日(金)、東宝(株)第一会議室にて「市場活性化キャンペーンワーキンググループ」(仮)準備会議を開催した。

このワーキンググループは、「日本のパッケージ市場は右肩下がりであるものの、まだまだ知恵を出し合えば市場の活性化が出来るのではないだろうか。今こそ、会員各社が一丸となって市場を活性化していこう！」と理事会であげられた意見をもとに、特別委員会として発足した。

当日は、同ワーキンググループの座長である島谷理事(東宝(株)代表取締役社長)から推薦を受けた8社より委員が正式に指名された。

また、会議中では各委員から現状の枠にとらわれない自由な発想のもとに、活発な提案が多数出された。今後は、これらの意見を検討し実現に向けて議論重ねていく予定である。

eメディア部会

eメディア部会第11回定例セミナー開催

eメディア部会では、4月19日(火)に第10回定例セミナーを開催した。今回は(株)ハコスコの藤井直敬代表取締役をお迎えし、「VRが映像ビジネスを変える」をテーマご講演いただいた。

VR(バーチャルリアリティ)とは何かから始まり、「TRON(トロン)」など映像作品で描かれたVRの歴史や、VRに使用されるHMD(ヘッド・マウント・ディスプレイ)の歴史などをたどりながら、現在のVRの状況を解説いただいた。その上で、VRの本質は記録された映像と現実の認知を操作することで、人の認知機能を拡張することにあるとした。この認知機能の拡張という流れは、止めようもないものであり、したがってVRは長期的には必ず普及する技術である。ただし、ビジネスとして成立するためにはいくつかの課題もあり、その一つが、他人が使ったHMDを使うことには抵抗感がある、ということであるが、これは映画のようにプロジェクトに変わることで解決されるとされた。同様にコンテンツ製作としては早期に参入する必要は必ずしもなく、映画と同じように、後から参入しても心配はないほどの十分大きなマーケットとなるだろうとのことであった。参加者は34名。

当日のセミナー内容は、協会ホームページの会員社専用ページに掲載する予定となっている。

(http://www.jva-net.or.jp/member_only/)

ビデオソフト売上統計調査の 変更点について

マーケット調査委員会統計調査グループ(小野里康雄委員長 (株)ポニーキャニオン)は3月11日(金)午後3時から会議を開催し、JVAで実施しているビデオソフト売上統計調査について、調査対象や調査項目について次のような点を変更することを決めた。

1. 今春以降に発売が予定されている「ULTRA HD Blu-ray」を新たに調査対象に加える
2. これまで調査の対象としていなかった雑誌やコミック、食玩等に付録として添付されるDVDやブルーレイの売上についても調査対象に加える(ただし、生産請負による売上は対象とならない)
3. 作品数のカウントとして、「レベニューシェアリング」のみでリリースされる作品数について別枠を設けて報告する

なお、当日はCDにバンドルされるDVDやブルーレイについても報告の対象とする件についても検討されたが、その後の各レコード社へのリサーチの結果、現状では困難な点が多く見送られることとなった。

上記3点については、5月度の調査から変更され、可能な社から随時対応していくこととしている。

イベント

第40回 JVA懇親ゴルフコンペ開催報告

去る、4月20日(水)、千葉県香取郡の成田ハイツリーゴルフ倶楽部において、毎年恒例のJVA懇親ゴルフコンペが開催された。春らしい穏やかな気候の中、総勢37名が参加し、腕前を競い合った。

優勝は、(株)ポニーキャニオンの三宅容介氏。また、同スコアながら年齢ジャッジにより準優勝は、同社代表取締役社長の吉村 隆氏、3位を(株)パップ代表取締役社長の花房秀治氏が獲得した。ベストグロ賞はワーナーブラザースジャパン(同)の畠山宏氏がグロス85の素晴らしい成績で獲得した。

終了後は、成績発表会を兼ねた懇親会が開催された。

▼見事優勝され、満面の笑みでトロフィーを手にする三宅氏



MPAとのMOUを更新

CODAとモーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)は、全世界に及ぶ現在のオンライン著作権侵害問題に対する新たな善処法の開発や共同での著作権保護活動の強化を目的とする公式同意書(MOU)の期間を2年延長することに合意し、2016年4月12日にアメリカ・ラスベガスにおいて署名式を行った。

4月11日から14日にかけて、アメリカの興行界や映画配給会社の代表者たちが集うコンベンション「CinemaCon2016」がラスベガスの名門ホテルCaesars Palaceにおいて開催されており、署名式は其中で執り行われた。当日はMPAAのChris Dodd会長及びアジア太平洋地域のMike Ellis代表の立ち合いのもと、MPAAの副法律顧問、MPAのオンライン侵害対策を指揮するDean Marks氏との間でMOUが締結された。CODAからは、後藤健郎専務理事、大塚竜也海外渉外担当部長が出席した。

CODAとMPAは2005年より、主に店舗などで販売されているCDやDVDなどの物理的な海賊「盤」を対象とした「共同エンフォースメント」を行ってきた。これは、海賊版の製造・流通が多い中国・香港・台湾を対象に、MPAの調査によって日本コンテンツの海賊版が発見された場合、CODAとMPAの業務提携に基づき共同取締りが実施されるもの。2016年3月までの約11年間で16,490件の取締りが行われ、計3,690人が逮捕された。押収DVD等は6,911,612枚にも上る。この取り組みは、CODAの東アジアにおける活動をより充実させた。

一方、近年のIT技術の進化により、著作物を含むすべての情報がデジタル化され、それがインターネットを介して誰もが容易に世界中に拡散できる時代となった。この情報流通の革命により、新たな形態のコンテンツビジネスが生まれたと同時に、オンラインを通じた違法アップロードが世界中で蔓延し、侵害行為はより複雑かつ巧妙に変化していった。インターネットの普及以前は主に一部の犯罪者によって行われていた著作権侵害も、世界各地の一般利用者が無意識に、もしくは気軽に行う行為となってしまった。そこで、世界中で大きな問題となっているオンライン上の著作権侵害に関する情報を共有し、その対策・協議を深めることを目的に、CODAとMPAは2014年3月20日に公式同意書を締結した。

この同意書に基づき、CODAがMPA責任者を日本に招へいし「国境を越えたインターネット侵害対策の取り組み」と題したセミナーの開催や、EUにおける侵害状況やサイトブロッキングなどの最新対策に係る視察、またCODAがアメリカを訪問して日米それぞれの著作権侵害の現状やその具体的対策について意見交換するなど緊密な関係を継続してきた。CODAではこれら協議等を参考に、新たな対策をスタートしている。2015年7、9月に

は、CODAが東アジア地域以外で行う初めてのエンフォースメントとなる米国での「ドメイン差押え」の申し立てを行った。また、MPAA構成メンバー6社が出資し、全世界レベルでの侵害ファイルの拡散の監視調査やコンテンツの正規流通に係る技術的な検証を行う会社「Motion Picture Laboratories, Inc.(Movie Labs)」と業務提携を行い、世界各国における日本コンテンツ被害状況の可視化への試みにも乗り出している。

MPAにとっても、今回のMOU更新は極めて重要なものであり、同組織アジア太平洋地域支部の公式Webサイトにおいて、本署名式に関する発表がなされている。またこの発表において、2016年2月にインドネシア・ジャカルタで文化庁が主催しCODAとMPAが参加した「小学校教員のための著作権フォーラム」に関し、この取り組みによってインドネシアの多くの児童が著作権の価値をより認識して成長することを期待すると高く評価し、これまでの連携の成果のひとつであると紹介している。

国境を越えたオンライン侵害へ対策を講じるには、国境を越えた協力が必要不可欠となる。MPAとの共同取り組みは既に多くの実績を生んでいるが、MOUに基づいた協力体制の真価が現れるのはこれからだ。

署名式の中でCODAの後藤専務理事は、「10年以上にわたるMPAとCODAの協力関係の中で、多くの著作権侵害対策に尽力してきた。今後はアジア全域を含め世界的に問題となっているオンライン上の著作権侵害対策に力を注ぎたい」と両者が協力して行う今後の活動について、更なる発展を誓っている。

(執筆：CODA事務局)

▼署名式の様子

写真上右:MPAA Chris Dodd会長

写真上左:MPA アジア太平洋地域プレジデント&マネージング・ディレクター Mike Ellis氏

写真下右:MPAAグローバルコンテンツ保護責任者 Dean Marks氏

写真下左:CODA後藤健郎専務理事





リレーエッセイ

119

メモリーテック(株) 上田 豊 氏からのご紹介

●吉村 隆 氏 (株)ポニーキャニオン 代表取締役社長)

「ストレス解消法」

ここ数年、休日は勿論、平日も仕事絡みでゴルフに行くことがとても多い。ゴルフを始めた頃は4発続けてOBなんて当たり前、打っても打っても前へ進まず、短いミドルホールでもあの頃は“ここロングホールでしょ?”と思うことがしばしばでした。

そんな下手くそな私でも心優しき?先輩達は私をいつも誘ってくれましたが、少したって気づけばただのカモ。このことは誰しもがそのあとゴルフを続けるかやめるかの大きな分岐点になる一つのことにように思いますが、私はいつか必ず取り返してやるという強い気持ちの方が勝って、あれからもう30年もゴルフをしています。

さすがにあれから少しは進歩もしたし、続けるうちに自然を相手に挑むそのゴルフの奥深さと、ゴルフはミスのスポーツと言われるそうですが、そのミスをしたときにいかに自分を抑えて自身をコントロールしていくかというこのスポーツにどんどんはまっていきました。

「趣味は?」と聞かれたらたぶん「ゴルフ」と答える自分はいます。でもよくよく考えたら、ミスをしてそのミスに腹を立てずに自分をぐっと抑えてプレイをし続けなければならないし、仲間内で行くゴルフならともかく、仕事絡みがほとんどのゴルフでは正直なところ気疲れもします。勿論その仕事絡みのゴルフで新たな出会いと、次の仕事に生かされたこともたくさんあるので、ゴルフはとても素晴らしいものだと思います。そしてそのゴルフを続けてきたお陰で私もいろんな方々と知り合え、今の自分があると心からそう思っています。

ではそのゴルフで「ストレス発散」「ストレス解消」になっているかと問われたらそれは少々疑問なところが...

ゴルフは大好きです。でも日々の仕事の中で溜まるストレスを発散したり、頭の切り替えを一瞬でさせてくれるのは、感受性の強かった10代~20代のときに触れたROCK音楽を爆音で、それもギターを抱えてそのROCK音楽に合わせて弾きまくること(今ではもうコードくらいしか弾けなくなっていましたけど)が、やっぱり自分の一番の「ストレス解消法」かもしれないですね。

これでも遠い昔はバンドでステージ立っていたし、一時はプロになることを夢見たりしたこともありました。そんなこともあって今の会社に入り、今もいろんな音楽や映像コンテンツを世に送り出す仕事に携わっていますが、何かあるとやっぱりこの世界に入る原点となったROCK音楽の中に身をおいて、ギターを掻き鳴らしてるときが一番心が落ち着きます。

ただ今の人たちは本当に恵まれてて、ギターを自分で学ぶにもスコアがあったり、You Tubeにはほとんどの曲の弾き方や、この音を出すためのコードの押さえ方といった解説、又この音色を出すためのアンプの調整の仕方まで動画でアップされていて、ある程度の技術を持っていれば短時間でマスターできてしまいます。ある意味羨ましい時代です。

でもそれではつまらない。時代は変わったから仕方ないのかもしれないけど、我々が若かった頃のギター少年は皆“耳コピ”でした。

「レコードが擦り切れるまで何回も聞いてコピーした」なんて言葉は、今の人たちにはわからないでしょうね。レコードが擦り切れるのは嫌だから、あえてもう一枚同じレコードを買ってそれを保存版にしたり、カセットテープに録音してコピーはカセットで何回も何回も聞いて音を拾ったりしていました。それでもあの大好きな曲のコード進行はある程度わかってても、録音されてる音との微妙な違い、あの雰囲気をどうやったら出せるんだろうと試行錯誤したことが、今に繋がってるような気がします。

そう、そのなかなか出せなかった音を探し出せたときのあの感動。その感動の音をレコード(今はCDか)に合わせてギターを弾いているときに、日々のストレスを忘れさせてくれる最高の時間となっています。

今でも休日は勿論、仕事から帰ってきて頭の切り替えをしたくなったらギターを抱え時間を忘れて“耳コピ”しています。やっぱりそれが私の一番の「ストレス解消法」ですね。ちなみに私のアドレスの一部は、keith_openg1990です。これ、わかる人にはわかるアドレスです(笑)

▼日誌に見る協会の動き

[4月]

- 1日 著作権部会
- 5日 定例理事会
- 6日 レンタル運用委員会
マーケティング委員会
- 7日 新入社員合同研修会
権利者団体対応委員会
- 8日 業務使用対策委員会
JASRAC協議
- 12日 総合連絡委員会

- 14日 JASRAC協議
- 15日 流通促進部会
- 19日 eメディア第11回定例セミナー
- 20日 JVA懇親ゴルフコンペ
- 21日 権利者団体対応委員会
- 22日 新入社員合同研修会
市場活性化キャンペーンWG
- 27日 映像ソフト市場規模及び
ユーザー動向調査記者発表
総務人事委員会

28日 業務部会幹事会

[5月]

- 10日 定例理事会
- 11日 レンタル運用委員会
マーケティング委員会
映像ソフト市場規模及び
ユーザー動向調査会員社向け説明会
- 13日 著作権部会
- 17日 総合連絡委員会

- 18日 東北地区連絡協議会
定例会議
- 19日 関西地区連絡協議会
定例会議
- 20日 業務使用対策委員会
- 24日 ビデオレンタル店実態調査
グループ会議
- 26日 業務部会幹事会

統計

JVA会員によるメーカー出荷段階の金額、数量について集計した統計調査

2016年3月度

(金額：百万円 数量：千枚)

	3 月 実 績								1 月 ～ 3 月 の 累 計								
	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同月比	新作数	前年 同月比	売上金額の 増減社数	金 額	構成比	前年 同期比	数 量	構成比	前年 同期比	新作数	前年 同期比
販売用	6,438	55.3%	80.6%	2,065	43.0%	80.8%	564	105.2%	増 減 11社 18社 他2社	21,190	63.0%	103.5%	6,232	48.1%	100.8%	1,365	101.3%
レンタル店用	4,961	42.6%	106.2%	2,721	56.6%	124.5%	406	83.9%		12,051	35.8%	98.1%	6,662	51.4%	106.9%	1,017	77.2%
業務用	241	2.1%	149.7%	20	0.4%	43.6%	42	72.4%		410	1.2%	131.0%	74	0.6%	44.6%	143	105.9%
DVDビデオ	11,640	60.6%	90.8%	4,806	74.5%	100.4%	1,012	93.9%	増 減 16社 12社 他3社	33,651	59.9%	101.8%	12,968	72.9%	103.1%	2,525	90.2%
販売用	7,089	93.6%	84.1%	1,300	79.2%	90.7%	338	107.0%		21,371	95.1%	99.6%	4,047	84.2%	103.6%	823	111.7%
レンタル店用	467	6.2%	165.0%	333	20.3%	273.0%	20	125.0%		1,044	4.6%	124.4%	747	15.5%	177.4%	52	96.3%
業務用	21	0.3%	177.0%	9	0.6%	363.8%	0	－		66	0.3%	69.0%	15	0.3%	78.9%	0	－
ブルーレイ	7,577	39.4%	86.8%	1,641	25.5%	105.4%	358	107.8%	増 減 16社 12社 他3社	22,481	40.1%	100.4%	4,809	27.1%	110.7%	875	110.6%
合 計	19,217	100.0%	89.2%	6,447	100.0%	101.7%	1,370	97.2%		56,132	100.0%	101.2%	17,777	100.0%	105.0%	3,400	94.7%

◎今月の売上報告社数……31社(*前年同月の報告社数32社) 無回答社……2社 ◎売上金額の増減社数……前年同月との比較。その他とは増減なし、または前年同月の報告がない場合
◎DVDビデオおよびブルーレイの新作数の「業務用」には不明分を含む。また「レベニューシェアリング」用の作品数は新作数の合計値から除いている。

2016年4月度

(金額：百万円 数量：千枚)

	4 月 実 績								1 月 ～ 4 月 の 累 計								
	金 額	構成比	前年 同月比	数 量	構成比	前年 同月比	新作数	前年 同月比	売上金額の 増減社数	金 額	構成比	前年 同期比	数 量	構成比	前年 同期比	新作数	前年 同期比
販売用	5,738	63.5%	79.0%	3,149	52.6%	145.7%	371	95.4%	増 減 17社 12社 他2社	26,928	63.1%	97.1%	9,381	49.5%	112.4%	1,736	99.9%
レンタル店用	3,164	35.0%	89.2%	2,269	37.9%	99.4%	349	92.8%		15,215	35.6%	96.1%	8,931	47.1%	104.9%	1,366	80.7%
業務用	133	1.5%	289.1%	570	9.5%	2228.8%	15	37.5%		543	1.3%	151.3%	644	3.4%	336.1%	158	90.3%
DVDビデオ	9,035	52.3%	83.3%	5,987	74.8%	133.9%	735	91.3%	増 減 14社 13社 他4社	42,686	58.1%	97.2%	18,956	73.5%	111.2%	3,260	90.4%
販売用	7,956	96.4%	97.2%	1,814	89.9%	97.8%	254	104.1%		29,327	95.4%	99.0%	5,861	85.8%	101.7%	1,077	109.8%
レンタル店用	291	3.5%	102.8%	204	10.1%	80.2%	16	51.6%		1,335	4.3%	119.0%	951	13.9%	140.8%	68	80.0%
業務用	2	0.0%	9.5%	1	0.0%	8.0%	0	—		68	0.2%	58.3%	16	0.2%	60.6%	0	—
ブルーレイ	8,249	47.7%	97.1%	2,018	25.2%	95.4%	270	98.2%	増 減 14社 13社 他4社	30,730	41.9%	99.5%	6,828	26.5%	105.7%	1,145	107.4%
合 計	17,284	100.0%	89.3%	8,006	100.0%	121.6%	1,005	93.1%		73,416	100.0%	98.2%	25,783	100.0%	109.7%	4,405	94.3%

◎今月の売上報告社数……31 社（※前年同月の報告社数32社） 無回答社……2社 ◎売上金額の増減社数……前年同月との比較。その他とは増減なし、または前年同月の報告がない場合
◎DVDビデオおよびブルーレイの新作数の「業務用」には不明分を含む。また「レベニューシェアリング」用の作品数は新作数の合計値から除いている。

2016年度 中堅社員合同研修会開催のお知らせ

総務人事委員会では、JVA正会員社の社員を対象とした研修会を実施します。4月に開催した新入社員合同研修会に続き、会員会社の皆様一堂に会して、学び、懇親を深めて頂く場としたと考えています。

研修内容は、国内の映像コンテンツ市場について、海外のホームエンタテインメント市場について、著作権等管理事業法についてをテーマとした講義、グループワークを予定しています。他事業から異動された方などは是非ご活用下さい。

なお、研修会後は懇親会を開催し、会員社間での親睦を深めて頂く予定です。

● 2016年度中堅社員合同研修会

日時 2016年8月5日(金)13時～17時

場所 日本映像ソフト協会会議室

(懇親は別会場にて、17時30分～19時終了予定)

※詳細は、総合連絡委員会、総務人事委員会等を通じてご案内します。申込み締切りは7月8日(金)。

本件に関するお問合せは、JVA事務局八十河(やそかわ)まで

一般社団法人 日本映像ソフト協会

会員社名(五十音順) 2016年6月1日現在

■ 正会員(30 社)

アスミック・エース(株)
ウォルト・ディズニー・ジャパン(株)
エイベックス・ピクチャーズ(株)
(株)エスピーオー
(株)NHK エンタープライズ
NBC ユニバーサル・エンターテイメントジャパン(同)
(株)KADOKAWA
ギャガ(株)
キングレコード(株)
(株)JVC ケンウッド・ピクチャーエンターテインメント
(株)小学館
松竹(株)
(株)ソニー・ピクチャーズエンターテインメント
(株)ソニー・ミュージックエンターテインメント
(株)第一興商
TC エンターテインメント(株)
東映ビデオ(株)
東宝(株)
東宝東和(株)
(株)東北新社
20世紀フォックス
ホームエンターテイメントジャパン(株)
日活(株)
(株)バップ
(株)ハピネット
バンダイビジュアル(株)
(株)ポニーキャニオン
ユニバーサルミュージック(同)
(株)よしもとアール・アンド・シー
リバプール(株)
ワーナー ブラザース ジャパン(同)

■ 協賛会員(19 社)

(株)アニプレックス
(株)一丸堂印刷所
(株)IMAGICA
エイベックス・ミュージック・クリエイティヴ(株)
カルチュア・エンターテインメント(株)
(株)キュー・テック
(株)金羊社
(株)ケンメディア
(株)ジャパン・ディストリビューション
システム
(株)星光堂
ソニー PCL (株)
東芝デジタルフロンティア(株)
(株)徳間ジャパンコミュニケーションズ
日本出版販売(株)
日本レコードセンター(株)
(株)博報堂 DY ミュージック & ピクチャーズ
(株)富士フイルムメディアクレスト
(株)ムービーマネジメントカンパニー
メモリーテック(株)